

I 調査研究のねらい

我が県は周年温暖な自然条件に恵まれており、スッポンの養殖が有望視されている。その養殖の歴史は浅く昭和45年から始まったばかりで、養殖上解決すべき問題がまだ多く残されている。特に疾病対策についてはまだ明確にされていない事が多い。

そこで、これらの疾病の実態を明らかにし、予防、治療対策の調査研究を行い、スッポン養殖業の安定的な発展を期したい。

II 沖縄県のスッポンの疾病と大分県のスッポンの疾病の比較

大分内水漁試(1977)はスッポンの病気の種類について研究し、細菌性疾病、ムコール症、皮膚ぐされ病、エピステリリスの寄生、餌料性疾病を明らかにしている。

そこで、大分内水漁試(1977)の疾病と当地方でみられる疾病を比較したのが表1である。

なお付着性繊毛虫寄生としてあるのは、本研究の場合、エピステリリスまで同定していないためである。

表-1 沖縄県のスッポンの疾病と大分県のスッポンの疾病の比較表

病名	沖縄県	大分県
細菌性疾病	○	○
ムコール症	×	○
皮膚ぐされ病	○	○
付着性繊毛虫寄生	○	○
餌料性疾病	×	○

○：疾病がみられた ×：疾病がみられなかった

細菌性疾病

大分内水漁試(1977)は細菌性の疾病と思われるスッポンからの分離菌の同定を行い、1, 2例を除きAeromonas菌による感染症であるとしている。

Aeromonas感染症の病状は、腹部のうっ血、出血性斑点、エラ状組織(群毛状小突起)の著しい炎症、腸管の炎症、時には口、鼻からの出血、等がみられることを述べている。

我々も過去3ヶ年、細菌の方面からの調査研究を主に進めてきた結果、当地方のスッポンの疾病も大分内水漁試(1977)の症状を呈するものが主で、それらよりAeromonasが分離された。詳しくは後述する。

ムコール症

ムコール症はケカビ科ムコール属に属するカビがスッポンの甲羅、四肢、頭部、尾部など、あらゆる場所の皮膚に寄生し、皮膚表層は壊死、白変し逐次剥離する疾病で、流水池や循環式水槽など新鮮な用水ほど発生率が高く、汚れた用水では成長が細菌との競合で抑制されるといわれ、したがって一般的養殖場のいわゆる土池でみられることはまずない(江草1970, 1976)といわれている。